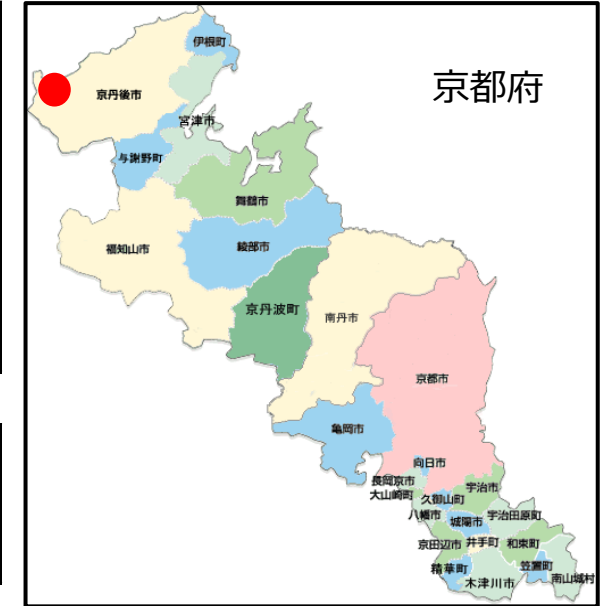


「農業法人と委員が定例会 集積・集約の意向聞き委員が地権者へ働きかけ」

京都府 京丹後市農業委員会 久美浜地域部会（久美浜ネットワーク会議）

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

- | | |
|----------------|----------|
| ○ 農業委員： | 19人 |
| ○ 農地利用最適化推進委員： | 33人 |
| ○ 事務局職員： | 4人 |
| ○ 市町村行政との連携状況： | 毎月、旧6町ごと |
- に市担当者と事務局、現地推進役等で調整会議を開いている



2 地区の特徴、状況、課題

- 京丹後市は、京都府北部の旧6町が合併した市で、久美浜町は旧村8地区からなる広大な地域
- 地域は、三つの河川と山間部・平地・砂丘地・国営農地などからなり、多様な農業が営まれている
- 山間部については、遊休農地が見られるが、農業法人11社が担い手の中心となっている

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 平成28年7月に新体制に移行し、旧町ごとに地域会議が発足
- 毎月の久美浜地域会議の話し合いから、平成29年3月、地域の農業法人と委員が定期的に意見交換する「ネットワーク久美浜」が発足。法人間の農地の利用調整と委員活動等の幅広い情報交換と研修の場になる
- 新体制1期目は、久美浜地域会議とネットワーク久美浜が定期的にかかれ、この取り組みが旧5町の定例会議として波及。京都府内の市町村において「地区連絡会議」の設置が進むなか、他の地区連の委員とも情報交換する

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 令和元年7月に2期目がスタート。京力農場プラン（人・農地プラン）の実質化の取り組み初年度として、地図作成とアンケートの実施を地域会議で協議、進める
- 久美浜地域会議が足場となり、委員それぞれが地区に入り担い手や農家組合などと地区の将来を話し合う
- 令和2年2月、佐野南地区の地域会議で、法人間の集約協議と委員による地権者への働きかけが一気にまとまる

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください